

ガストースは必ず詰まる——その誤解を払拭する方法

「ガストースは詰まるから使えない」という声を耳にすることがあります。しかし、正しく使用すれば詰まることなく活用できるのです。

詰まると評価されなくなる理由

初めてガストースを使うと、その高い流動性と低圧成形で「これは使える」と感じます。ところが、生産を続けるうちに徐々にガスベントが詰まり始めます。

納期に追われる中で成形条件を調整し、樹脂温度や金型温度、充填圧を上げていくと、今度は樹脂がベントに詰まってしまい、ガスが抜けなくなります。単にガスだけが詰まるなら洗浄で回復可能ですが、樹脂が詰まると突出しピンと変わらなくなり、使えないと判断されてしまうのです。

詰まらずに使い続ける方法

解決策はシンプルです。

- 樹脂が詰まるほど充填圧を上げないこと
- 適切なタイミングで清掃を行うこと

生産中にウエルドやショートで一時的な停止が出た際、ガスベントを掃除します。

ここで役立つのが、プラモール精工が販売している**「ガストース洗浄ノズル」**です。

このノズルは洗浄液をエアガンの力で同時に吹き込み、ベント内に溜まったガスを溶かして流し込みます。

重要なのは、樹脂が詰まる前に洗浄することです。正常稼働中にあえて停止させて掃除する必要はなく、トラブル時や一時停止の際に対応すれば十分です。

注意点

- 樹脂温度や充填圧を上げすぎないこと
- ガスベントが詰まる前に定期的に洗浄すること

この2点を守れば、ガストースは「必ず詰まる部品」ではなく、「無停止成形を支える信頼できる部品」として活用できます。